

大量消費社会の脆さを浮き彫りにした東日本大震災。福島第一原発事故でシステムの転換が迫られる

中、三菱総合研究所の小宮山宏理理事長(67)＝東大総長顧問＝は「環境と長寿、雇用が成り立つ持続可能な社会が理想」と訴える。輝きを失わない「プラチナ(白金)社会」と呼ぶ、その構想を聞いた。

(聞き手・松井 元、撮影・岡田青磨)

「プラチナ社会とは。プラチナはシルバーのよつぎにさびることなく、輝き続ける。若者も高齢者も生き生きと暮らせる。そんな願いを込めた。地球環境問題、高齢化問題の解決と雇用の確保を同時に目指すものだ」

「具体的には…」
「一例が林業の復活だ。試算では日本は約1億立方

持続可能なプラチナ社会とは？

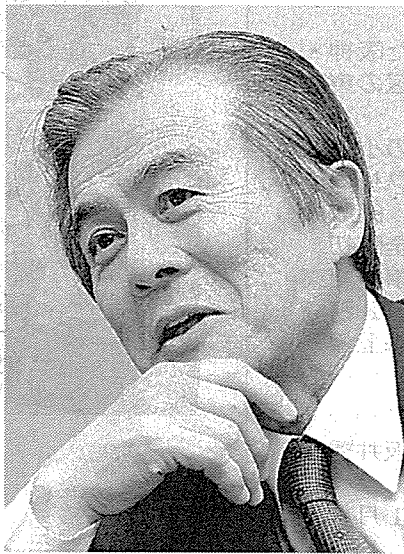
課題解決で需要生み出す

材の木材を採取可能だ。現 後も元の水準に戻らず生産在の消費は約7千万立方材 できている。家庭も電力使で残りは輸出できる。木片 用が減った。省エネは最大を燃料にすれば重油の消費 のエネルギー源なので徹底 減や高齢者雇用にもつなが る」

「一方、『創エネ』として エネルギー政策の転換 自然エネルギーの活用も不 可欠だ。太陽光発電は神戸 にも役立ちそうだ。 この夏、産業界は、10 ても産業界地など場所があ %以上は節電したが、解除 するはず。発電コストもかつ

三菱総合研究所理事長

小宮山 宏氏



「エネルギー政策の転換 自然エネルギーの活用も不 可欠だ。太陽光発電は神戸 にも役立ちそうだ。 この夏、産業界は、10 ても産業界地など場所があ %以上は節電したが、解除 するはず。発電コストもかつ

こみやま・ひろし 67年 ンフトボール部に所属。 東大工学部卒。教授、工学 「課題先進国」日本」低 部長、副学長などを経て05 炭素社会」など著書多数。 宇都宮市出身。

この人に聞く